

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 15の施策の評価結果

目標	施策	柱	活動の状況					活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価			
			大変順調	順調①	順調②	やや遅れ	遅れ		指標	R1年度 参考	基準値	R2年度 実績	基準値比					
1 安心して子どもを 生み育てられるま ちをつくる	(1) 母子保健の 充実	① 安心して妊娠・出産できる仕組みづくり	0	7	3	0	0	2	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	増加	92.3%	91.7%	93.5%	1.8 pnt	2	[指標の説明] *妊娠11週までの妊娠届出者の割合、妊婦健診受診率、生後4か月までの乳児家庭訪問の割合、子どもの健診受診率とも、90%超の高水準を維持している。  [評価] >安心して子どもを生み育てられるよう、若年の妊婦や産後うつなど養育支援が必要な家庭に早期に関わる支援や妊産婦と乳幼児の健康管理など、妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援に取り組んだ。  [今後の方向性] >今後も、母子の健康保持・増進を図るとともに子育ての孤立化を防ぐため、関係機関と連携して地域での見守り体制を充実するなど、安心して子どもを生み育てられるまちをつくっていく。		
			0	5	1	0	2		子どもの健診受診率						2			
			0	5	0	1	0		4か月	増加	98.3%	97.6%	98.4%	0.8 pnt	2			
			0	5	0	1	0		1歳6か月	増加	97.2%	95.9%	99.2%	3.3 pnt	2			
	0	5	0	1	0	3歳児	増加	96.4%	94.5%	100.4%	5.9 pnt	2						
	0	5	0	1	0	乳幼児健康診査未受診者フォローアップ率	増加	100.0%	100.0%	100.0%	0.0 pnt	2						
	計	0	17	4	1	2	17/24取組						70.8%					
	(2) 母子医療体制の維持・ 強化	① 周産期医療・小児救急医療体制等の維持・確保	0	2	0	0	0	1	周産期医療、小児救急医療体制	維持	維持	維持	維持	達成	1		[指標の説明] *周産期母子医療センター4病院を中核とした産科連携体制を維持。 *市内医療機関の連携による24時間365日対応の小児救急医療体制を維持。 *麻しん・風しん予防接種の接種率の高水準を維持。  [評価] >引き続き、周産期・小児救急医療体制を維持したことにより、市民への安心感に寄与しており、本市の子育て環境の高評価につながっている。 >予防接種の接種動員に取り組む、接種率を高い水準で維持できている。  [今後の方向性] >引き続き、医療機関と連携し、支援体制の維持を図っていく。	
			0	1	0	0	0		3/3取組	予防接種率（麻しん・風しん 予防接種の接種率）	維持	93.7%	95.6%	96.7%	1.1 pnt			2
			0	1	0	0	0		100%									
計			0	3	0	0	0											
2 子どもや 若者が健やかに成 長するまちをつくる	(3) 乳児・幼児期の教育や 保育の充実	① 教育・保育の質の向上と量の確保	4	5	2	1	0	2	幼稚園に対する満足度（施設・環境、教育内容）							[指標の説明] *保育所待機児童は、0人を維持。 *保育所待機児童（10月時点）は、0人を3年連続で達成。 *幼稚園・保育所の満足度は、基準値をほぼ維持し、前年度より増加している。 *新型コロナウイルス感染症の影響により、保幼小連携事業の実施率が減少した。  [評価] >保育所の整備、小規模保育事業の開設、認定こども園への移行支援、一時預かり事業（幼稚園型）などを行い、受入児童数の拡大を図ったことにより、年度当初の特機児童0人を続けることに加え、10月時点の待機児童0人も3年連続で達成することができた。 >「女性の社会進出が進んでいること」「積極的な保育の受皿の拡充が新たな需要を掘り起こしていること」等により、保育ニーズが高まっている。 保育士・保育所支援センターの運営や「予備保育士雇用費補助」の実施など、保育士確保に努めた。 保育サービスコンシェルジュが各家庭のニーズに合わせ、きめ細やかな対応を行い、入所支援を行った。 >延長保育や一時保育など親の働き方等に合わせた多様な保育を提供するとともに、特別な教育的支援を要する幼児の就園先が確保できるように引き続き園に対して助成した。 >幼稚園・保育所の満足度が前年度より増加しているのは、通常の業務に加え、新型コロナウイルス感染症対策のため、各園・各所で工夫して行事等を実施したことも要因となっている。  [今後の方向性] >子どもの育ちを支え見守るために最適な保育環境を整備するとともに、教育・保育の内容の満足度を維持・向上していくためには、職員の配置や処遇の改善、職員の事務負担の軽減に、併せて取り組む。 >引き続き、継続的な待機児童の解消、満足度向上のため、ソフト・ハード両面から、幼児期の教育・保育の質のさらなる向上と量の確保に取り組む。 >保育所、幼稚園の保育環境から小学校の学習環境への円滑な接続を図るため、Web会議等を活用し、今後も保幼小連携事業に取り組む。		
			0	8	0	1	0		施設・環境	増加	84.0%	87.4%	87.7%	0.3 pnt	2			
		② 幼稚園、保育所等における多様なニーズ に対応した保育の充実	0	8	0	1	0		教育内容	増加	86.6%	90.4%	89.0%	▲1.4 pnt	3			
			0	8	0	1	0		施設・環境	増加	84.9%	86.7%	86.1%	▲0.6 pnt	3			
		③ 幼稚園、保育所等と小学校の連携の充実	0	1	1	0	0		内容	増加	89.0%	90.6%	91.5%	0.9 pnt	2			
			0	1	1	0	0		幼稚園における学校関係者評価実施施設数	全施設	94施設	94施設	94施設	達成	1			
		④ 幼稚園、保育所等における子育て支援の 充実	0	1	1	0	0		保育所及び地域型保育施設における児童福祉施設等第三者評価実施施設数	増加	5施設	5施設	2施設	▲3施設 (▲60pnt)	4			
			0	4	1	0	0		保育所待機児童数（4月・10月）									
			0	4	1	0	0		4月	0人	0人	0人	0人	達成	1			
			0	4	1	0	0		10月	0人	0人	0人	0人	達成	1			
計	4	18	4	2	0	保幼小連携事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合	維持	99.0%	99.0%	88.3%	▲10.7 pnt	4	22/28取組	78.6%				

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 15の施策の評価結果

目標	施策	柱	活動の状況					活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価			
			大変順調	順調①	順調②	やや遅れ	遅れ		指標	R1年度 参考	基準値	R2年度 実績	基準値比					
2	(4) 放課後児童の健全育成	① 放課後児童クラブの環境整備	0	3	0	0	0	1	放課後児童クラブの利用を希望する児童の受け入れ	100%	100%	100.0%	100.0%	達成	1	<p>[指標の説明] *クラブの利用希望に対する受け入れは100%を達成。 *クラブの満足度は、施設・環境、開所時間等いずれも上昇している。</p> <p>[評価] &gt;放課後児童クラブの利用を希望する児童を全学年で受け入れた。 &gt;放課後児童クラブに対する満足度は、保護者の満足度が約7割から8割となっているが、小学生を対象に行ったアンケートでは、94%が「クラブは楽しい」と回答しており、子どもが健康やかに成長できる環境が維持されていると考えている。</p> <p>[今後の方向性] &gt;放課後児童クラブの施設整備や利用内容の充実など、引き続き必要な環境整備に取り組む。 &gt;放課後児童支援員に対する研修に加え、巡回カウンセラーやアドバイザーの巡回・派遣等を行い、運営の強化や質の向上に取り組む。</p>		
			0	2	0	0	0		5/5取組	施設・環境	増加	56.4%	61.8%	71.4%			9.6 pnt	2
		0	2	0	0	0	100%	開所日・開所時間	増加	70.1%	74.3%	80.3%	6.0 pnt	2				
		計	0	5	0	0	0		運営内容に関する自己評価実施クラブ率	増加	—	—	100.0%	達成			1	
	(5) 地域における子どもの居場所づくり	① 子どもの遊び環境の充実	0	2	0	1	1	3	子どもの遊び場や公園に対する満足度	増加	56.1%	53.5%	58.6%	5.1 pnt	2		<p>[指標の説明] *遊び場や公園の満足度は増加。 *子ども食堂の開設数は増加。</p> <p>[評価] &gt;コロナ禍のため、子育て支援施設等への来場者数は減少したが、安全に配慮した公園整備や、子どもの館など屋内の遊び場の提供などにより、満足度を維持していると考えている。</p> <p>[今後の方向性] &gt;より魅力のある子育て支援施設の運営に取り組んでいくとともに、遊具やトイレ等の充実を求める声もあり、安心して子どもが遊べる場の提供ができるよう、公園・道路等の整備・改善も図っていく。</p>	
			0	2	0	1	1		6/10取組	子育て支援施設（子育てふれあい交流プラザ、児童館）の満足度	維持	99.9%	99.8%	—				—
		1	3	1	1	0	60%	子どもの館	維持	95.2%	98.2%	99.5%	1.3 pnt	2				
		1	3	1	1	0		児童館	維持	92.6%	92.5%	93.5%	1.0 pnt	2				
		計	1	5	1	2	1		市内における子ども食堂の開設数	増加	30か所	30か所	35か所	5か所 (16.7pnt)	1			
	(6) こころの教育、体験・学習機会の充実	① 学校等におけるこころの教育の推進	0	2	1	1	0	4	人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した児童生徒の割合						—			<p>[指標の説明] *新型コロナウイルス感染症の影響により小学生、中学生への調査を実施できなかった。</p> <p>[評価] &gt;新型コロナウイルス感染症防止のため、青少年の家やユースステーション等の利用の減少やイベントの中止で体験活動ができなかった。</p> <p>[今後の方向性] &gt;新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、工夫をして体験活動等を通じた学びの機会の提供・充実を図っていく。 &gt;新科学館の整備・開館に取り組む。</p>
			0	0	1	2	7		3/15取組	自分にはよいところがあると回答した児童生徒の割合								
0		1	0	0	0	20%	小学6年生	増加	94.4%	93.4%	—	—	—					
0		3	2	3	7		中学3年生	増加	94.5%	93.5%	—	—	—					
0		1	0	0	0		小学6年生	増加	78.0%	78.9%	—	—	—					
計		0	3	2	3	7		中学3年生	増加	72.9%	73.7%	—	—	—				
(7) 青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援	① 非行を防止するための取り組みの推進	0	4	0	0	1	3	非行者率（暦年）	減少	3.6人	3.6人	3.4人	▲0.2人 (▲5.6pnt)	2	<p>[指標の説明] *非行者率は毎年着実に低下。 *協力雇用主登録者数は増加。 *いじめの解消率は高水準を維持。</p> <p>[評価] &gt;非行者率は、毎年着実に減少しており、地域・学校・警察等と連携した取組が寄与している。 &gt;非行歴のある青少年の就職促進のため、福岡保護観察所と協働し、協力雇用主の拡充を図っている。 &gt;いじめ・不登校等の問題については、確実な実態把握に努め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置や関係機関との連携により、きめ細やかな対応を行っている。 なお、いじめの解消率については、過去の実績を含め、把握している案件については非常に高い水準で取り組まれている。</p> <p>[今後の方向性] &gt;引き続き、関係機関等と連携し、子どもの成長を促す様々な体験の場を提供するとともに、青少年の健全育成が十分図られるよう、いじめの実態調査で把握に努め、必要な環境整備・支援に取り組む。</p>			
		0	3	1	0	0		13/22取組	少年の再犯者数（暦年）	減少	77人	77人	80人			3人 (3.9pnt)	3	
	0	3	1	0	0		北九州市協力雇用主登録者数	増加	262社	262社	267社	5社 (1.9pnt)	2					
	0	3	3	0	0		いじめの解消率											
	0	3	3	0	0		小学生	100%	99.4% (H30)	99.4% (H30)	99.8% (R元)	0.4 pnt	2					
	0	3	3	0	0		中学生	100%	98.8% (H30)	98.8% (H30)	98% (R元)	▲0.8 pnt	3					
	0	3	3	0	0		長期欠席児童生徒数（1,000人あたり）											
	0	3	3	1	0		小学生	全国平均以下	18.1人 (H30)	全国平均 14.5人 (R元)	18.8人 (R元)	4.3人 (▲29.7pnt)	4					
	0	3	3	1	0		中学生	全国平均以下	57人 (H30)	全国平均 50.1人 (R元)	58.9人 (R元)	8.8人 (▲17.6pnt)	4					
	0	3	3	1	0		「YELL」来所相談者の就業等実績	増加	44人	44人	35人	▲9人 (▲20.5pnt)	4					
	計	0	13	7	1	1		ひきこもりの人の自立に向けた支援段階が進んだ割合	増加	55.0%	51.7%	54.0%	2.3 pnt	2				

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 15の施策の評価結果

目標	施策	柱	活動の状況					活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価				
			大変順調	順調①	順調②	やや遅れ	遅れ		指標	R1年度 参考	基準値	R2年度 実績	基準値比						
3	(8) 社会的養護が必要な子どもへの支援	① 里親やファミリーホーム、特別養子縁組の普及促進	0	3	0	0	0	2	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率	29.4%	23.0%	24.0%	25.7%	1.7 pnt	1	<p>[指標の説明] *里親やファミリーホームなどの委託率は前年度から微増。 *児童養護施設等退所者の生活・就業状況の改善件数は増加。</p> <p>[評価] &gt;児童養護施設等で、社会的養護が必要な子どもが、家庭的な環境と安定した人間関係のもとで、きめ細やかなケアを受けられる体制を維持した。 &gt;里親制度やファミリーホームの普及啓発を行った結果、受入体制にも進展がみられ、子ども一人ひとりに最も適した養育環境を用意し、里親やファミリーホーム委託率の上昇傾向につながっている。</p> <p>[今後の方向性] &gt;今後も、社会的養護が必要な子どもが健やかに生まれ自立できるよう、子ども一人ひとりに向き合い、その子どもにとって最適な生活環境を提供していくことができるよう、社会環境の整備に努めていく。</p>			
			② 児童養護施設における生活環境整備の促進や家庭支援機能の強化	1	3	1	0		0	特別養子縁組成立件数	H27~R6 10か年累計 28件	16件 (H27~R1 5か年累計)	2件	5件	3件 (250pnt)		1		
			③ 一時保護中や里親委託・施設入所中の子どもの権利擁護の取り組み	1	3	0	0		0	地域小規模児童養護施設の実施か所数	増加	6か所	6か所	6か所	0.0 pnt		2		
		計	2	9	1	0	0		児童養護施設等の退所者に対する生活相談により生活・就業状況が改善した件数	増加	30件	30件	35件	5件 (16.7pnt)	1				
	(9) 児童虐待への対応（北九州市子どもを虐待から守る条例の推進）	① 児童虐待の未然防止	0	6	0	0	0	2	乳幼児健康診査 未受診者フォローアップ率（再掲）	維持	100%	100%	100%	達成	1		<p>[指標の説明] *「北九州市子どもを虐待から守る条例」の認知度は増加。 *児童虐待による死亡事案発生はゼロを維持。</p> <p>[評価] &gt;出前講演や講座等の啓発等を通じて、市民への条例の周知を図り、児童虐待防止への理解を深めている。 &gt;児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応及び適切な支援を行うために、関係機関と連携し、関係職員等に対する研修会の実施や市民啓発等に努め、対応強化を図った。</p> <p>[今後の方向性] &gt;引き続き、関係機関と連携し、児童虐待の未然防止・早期発見・早期対応に努める。</p>		
			② 児童虐待の早期発見・早期対応・相談・支援の強化	0	7	2	1		0	「北九州市子どもを虐待から守る条例」の内容についての認知度	増加	72.5%	72.5%	73.9%	1.4 pnt			2	
			計	0	13	2	1		0	ペアレントトレーニング参加家族数	5か年累計 170家族	161家族 (H27~R1 5か年累計)	30家族	15家族	▲15家族 (▲50pnt)			4	
		児童虐待による死亡事案の発生件数	0件	0件	0件	0件	0件		達成	1									
	(10) 障害のある子どもや発達障害の気になる子どもへの支援	① 心身の発達が気になる子どもの早期発見と相談・支援体制の強化	0	8	2	0	0	2	子どもの成長や発達、障害に関し、「必要と感じたら専門機関・施設等に相談する人」の割合	増加	69.3%	69.4%	72.8%	3.4 pnt	2			<p>[指標の説明] 子どもの成長や発達、障害に関する不安等について *専門機関・施設に相談する人の割合は増加。 *友人や家族を含め、相談できる相手が全くない人の割合は微増。</p> <p>[評価] &gt;障害のある子どもの早期発見と相談・支援、全保育所での障害児の受入体制の整備、進路アドバイザーや就労支援コーディネーターによる高等部卒業生の就労支援など、障害のある子どもの成長過程に応じた支援を行い、障害のある子どもが自立し、社会参加できる社会環境づくりを着実に推進することができた。 &gt;放課後等デイサービスの受入定員は増加している。 放課後等デイサービス利用者の保護者を対象に行ったアンケートでは、放課後等デイサービスで過ごすなかで、お父さんの変化(苦手だったことができるようになったなど)を感じられるようになった保護者の割合が多く、満足度も高くなっている。</p> <p>[今後の方向性] &gt;引き続き、障害のある子どもとその家庭に対し、成長過程に応じた切れ目ない相談・支援を行い、必要な時に必要な支援を受けることのできる環境整備に取り組む。</p>	
			② 障害のある子どもの受け入れ体制の強化	0	10	1	0		0	子どもの成長や発達、障害に関し、「相談する相手がいらない人」の割合	減少	2.9%	3.5%	4.5%	1.0 pnt				3
			計	0	18	3	0		0	障害のある子どもを受け入れる保育所の施設数	維持 (全施設)	全施設 (166施設)	全施設 (166施設)	全施設 (166施設)	達成				1
		障害のある子どもの受け入れに取り組み幼稚園(サポート園)の施設数	増加	12園	12園	12園	0.0 pnt		2										
(11) ひとり親家庭等への支援	① ひとり親家庭の生活の安定と向上	1	8	4	1	0	2	ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用数(母子・父子福祉センターの延べ利用者数)	増加	10,446人	10,446人	9,059人	▲1,387人 (▲13.3pnt)	3	<p>[指標の説明] *ひとり親家庭の支援・相談窓口である母子・父子福祉センター、子ども・家庭相談コーナーを知らない人は減少。 *児童養護施設の高卒卒業後の進学率は増加。</p> <p>[評価] &gt;ひとり親家庭の支援・相談窓口である母子・父子福祉センターの延べ利用者数は、1万人前後の水準で推移しており、今年度も数多くの家庭に対し、支援を行うことができた。 &gt;子ども・家庭相談コーナーの認知度は高く、各種支援制度のつなぎ役として重要な役割を担っている。 &gt;就労面、生活面、経済面など、ひとり親家庭等に対する様々な支援策を提供することにより、自立と生活の安定に寄与している。</p> <p>[今後の方向性] &gt;引き続き、ひとり親家庭等が経済的にも社会的にも自立し、安定した生活を営むことができるよう、生活支援や就業支援など多様な支援策を行うとともに、その利用を促すため、効果的な情報発信を行っていく。</p>				
		母子・父子福祉センター	減少	51.7%	51.8%	47.7%		▲4.1 pnt	2										
		子ども・家庭相談コーナー	減少	8.6%	8.3%	7.0%		▲1.3 pnt	2										
	② 子どもの貧困対策	1	6	1	0	0		ひとり親家庭の就業率(母子家庭、父子家庭)								2			
		母子家庭	増加	87.9% (H28)	87.9% (H28)	—		—	—										
		父子家庭	増加	94.2% (H28)	94.2% (H28)	—		—	—										
生活保護世帯・児童養護施設及びひとり親家庭の子どもの進学率																			
生活保護世帯 中学卒業後 高校卒業後	増加	88.1% 31.9%	88.4% 35.2%	—	—	—													
児童養護施設 中学卒業後 高校卒業後	増加	100.0% 33.3%	100.0% 20.0%	100.0% 29.7%	0.0 pnt 9.7 pnt	2													
ひとり親家庭 中学卒業後 高校卒業後	増加	96.5% 67.4% (H28)	96.5% 67.4% (H28)	—	—	—													
計	2	14	5	1	0	計	2	14	5	1	0	72.7%							

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 15の施策の評価結果

目標	施策	柱	活動の状況					活動の評価	成果指標				成果の評価	施策の総合評価			
			大変順調	順調①	順調②	やや遅れ	遅れ		指標	R1年度 参考	基準値	R2年度 実績			基準値比		
4 子育ての喜び・楽しさを得られるまちをつくる	(12) 子育てを応援する体制づくり	① 地域における子育て支援の環境づくり	0	2	1	2	0	2 29/35取組 82.9%	子育ての悩みや不安を感じる人の割合						2	B	
			就学前	減少	35.5%	34.7%	40.9%		6.2 pnt	3	[指標の説明] *子育ての悩みや不安を感じる人の割合は、小学生の保護者では減少している。 *子育てが楽しいと感じる人の割合は、就学前児童の保護者では増加している。 *子育てを支えてくれる人がいる人の割合は、就学前児童の保護者では増加している。 *子育てに関して相談できる人がいる割合は、増加している。						
		小学生	減少	41.6%	41.6%	39.6%	▲2.0 pnt		2	[評価] >子ども・家庭相談コーナーの相談件数は年間約7万～8万件と多く、関係機関と連携しながら、各家庭の状況に応じた支援・対応に努めてきた。 >子育てに関して相談できる人(場所)がいる(ある)人の割合は、就学前、小学生、中学・高校生の全ての保護者で増加しており、幼稚園・保育所、親子ふれあいルームなどでの支援体制の充実が、良い結果につながっていると考えられる。							
		中学・高校生	減少	40.2%	38.8%	43.6%	4.8 pnt		3			[今後の方向性] >引き続き、子育ての悩みや不安を軽減することができるよう、相談の場や支援策のさらなる充実を図るとともに、その周知に取り組む。					
		② 子育てを支える人材の育成・活用	0	6	0	0	1		子育てが楽しいと感じる人の割合								
			就学前	増加	91.1%	91.1%	92.2%		1.1 pnt	2							
		③ 子育て家庭への経済的支援	0	8	0	0	0		子育てを支えてくれる人がいる人の割合								
			就学前	増加	97.1%	97.1%	98.6%		1.5 pnt	2							
		④ 市民が利用しやすい相談体制	1	2	1	0	0		子育てに関して相談できる人(場所)がいる(ある)人の割合								
			就学前	増加	97.3%	97.3%	97.1%		▲0.2 pnt	3							
⑤ 子育てに関する情報が届く仕組みづくり・PRの強化	0	7	0	0	0	子育てに関して相談できる人(場所)がいる(ある)人の割合											
	就学前	増加	97.0%	96.1%	98.2%	2.1 pnt	2										
⑥ 外国人市民の子ども・保護者への支援	1	2	0	1	0	子育てに関して相談できる人(場所)がいる(ある)人の割合											
	就学前	増加	97.4%	95.6%	98.0%	2.4 pnt	2										
							子育てサポーター登録者数	増加	1,561人	1,561人	1,425人	▲136人 (▲8.7pnt)	3				
							子育て情報を提供するホームページの認知度	増加	81.8%	81.8%	79.6%	▲2.2 pnt	3				
		計	2	27	2	3	1										

